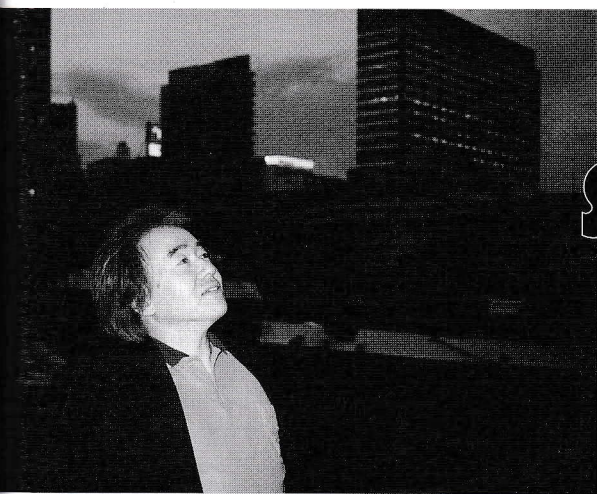




AMUSEMENT SQUARE stage

第二回「八戸芸術大学」に関しては、FLASH (P36) でも紹介しています。

演劇空間スペースベン

「宇宙的サウダーズ」

——第2回八戸芸術大学に寄せて

〈文／山内雅一 (ICANOE・八戸芸術大学事務局)〉

2002年3月22日、Zodiac novapopmachine & contemporary systemのドラッギーなサウンドとともにスタートした八戸芸術大学。第一回講座は講師／加須屋明子 (大阪国立国際美術館)、テーマは芸術と環境／写真・身体・エコゾフィー。レクチュアの後にはデイスカッションでは、予定時間をオーバーし、大勢の市民の意見が熱っぽく交換されました。

八戸芸術大学第二回講座は、来たる6月22日天聖寺ホールにて、宮沢賢治を再発見する思考の旅と、日本を代表するワン・アン

ド・オンリーの詩人吉増剛造と宮沢賢治という2つの強烈なエナジ

ーの化学反応を、ここ八戸の地で起こしてしまおうという、かつて試みられることがなかった実験です。

宮沢賢治／三陸大津波の

年にこの世に生を受け、三陸大津波の年に星界へと旅立ったこの壮大な広がりを持った存在を、21世紀に入つたいま、同じ東北の地に暮らす私たちが再発見し、東北なるものを思考する事で、ここから始めなければならない事を確認してゆく事こそ、これからの私たちに課せられた課題なのではないでしょうか。今回講師としてお招きする詩人吉田文憲氏も、秋田県比内町の生まれと云う事で、ここに花巻・比内・八戸という東北のゴールデン・トライアングルの出来上がるわけですから、そのゴールデン・トライアングルの天空に「リアル・ケンジ・ワールド」を出現させよう、というのが八戸芸術大学第二回講座の主旨なのです。

実際、ケンジは1926年に八戸を訪れ「八戸」という文語詩も残していますし、年代は前後しますが、妹トシの死後、彼女の霊と共に東北を抜け、さらに北の北極圏にまで向かうとしていました。すべての墓場は北方にあり、すべての霊は北方に集まる、というのを賢治は感じていたのではないのでしょうか。この見えないものを見ようとする眼差しこそ芸術、ひいては人生における最も重要なテーマなのです。

「幻想が向ふから迫ってくる」ときは、もうにんげんの壊れるときだ。これは詩篇「小岩井農場パート九」のなかにある詩句です。鳥肌がたつこの詩句「にんげんの壊れるとき」とは何を意味するのでしょうか。これについて吉田文憲氏は次のように語っています。

「にんげんの壊れるとき」とは絶望の詩句であるよりは、やはり救済の、希望の詩句であるというべきではなからうか。(中略)それは彼のヴィジョンに風が吹き、雨が降り出し、雲が生まれて、その流動する原言語的なカオスの渦巻きが四次元的な宇宙に変貌するときでもあるからである。「にんげんの壊れる」ところから、賢治の「書くこと」ははじまる。――と。

賢治は書くことによつて、私たちに宇宙的サウダーズを贈与しているのではないのでしょうか。私たちの琴線を震わせる賢治の言葉。「虹や月明かり」からもらった賢治の言葉。それは単にメルヘンチックな言葉ではないのです。それは絶対少年の冒険であり、今も私たちの体を貫いて届く、宇宙からの贈り物の言語化されたヴィジョンなのです。よつて賢治の作品とは広大無辺な宇宙をはしる「パノラマ・トレイン」からの眺めの映像であるといえます。賢治の作品のいくつかは映像化されたものもあります。しかし賢治の言

葉による映像を、何故もう一度映像化しなければならないのでしょうか。それはやはりオハナシの範疇を出るものではありません。本当に賢治作品を映像化するなら、それはかつて見たことがない、しかし懐かしさでいっぱいの前衛的作品になるはず。挿入される音楽は千変万化のコスミック・ノイズ。それはボディー・ソニックに立体映像の、超次元的装置によつて見る(感じる) Psychodolious Movieでなくてはならないでしょう。賢治の世界は、教科書的な思考でひとくくりにしてしまえるものではありません。賢治の前衛なるもの、それこそ東北の持つ重要なキー・ポイントでしょう。それは東北地方の言語・伝統・芸能などの文化を見れば一目瞭然です。東北こそ日本におけるアヴァンギャルドの地であり、サウダーズの地なのです。ここを通らずして賢治の何を知り得るのでしょうか。

「21世紀は東北の時代だ」と言います。それは単に、日本の中の地理的な場所としての東北、という事だけではなく、あらゆるものの「東北なるもの」こそが、今後の私たちの可能性を押し開くものだと考えるからです。賢治の一句一句が私たちに与えてくれる救済と希望。「虹と月明かり」は、私たちを「2002年賢治宇宙の旅」へと誘ってくれることでしょう。なお当日は、八戸芸術大学の母体であるICANOEが、2003年に開催する「食間展」へ向けてのプレ・エキジビションとして、一日限り、しかも6時間だけの写真展「食間展#1」と、宮沢賢治の詩に基づくポエム・パフォーマン

6月のFriday Amusement Negative Shop

■6月7日(第435回)
安達良春プラスワンシアター
タイトル未定

■6月14日(第436回)
未定

■6月21日(第437回)
未定

■6月28日(第438回)
未定

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんによりジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

※スペースベンでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っております。

Space BEN

下大工町 駐車場

中里病院 生命ビル

西町書店

NTT

駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。(近くに西町書店駐車場有り)

問 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

スペースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>
Eメールアドレス fans@spaceben.com